

地域と家庭に教育力の充実を

子どもをとりまく環境（家庭・学校・地域）は、それぞれが何らかの関わりを持ちながら、心身ともに健康な子どもに育つことを願っています。

しかし、核家族化の進行・出生率の低下・価値感の多



様化などの環境の変化により、その願いが果たせない状況になっています。

こうしたなかにあつて、文部省主催の『社会の変化に対応した新しい学校運営に関する調査研究協力会議』等では、子どもに対し、学



校や家庭・地域社会が、遊びや自然体験・生活体験のできるゆとりの機会を与え、思いやりと社会性のある心豊かな子どもを育てていくと提言しています。

今の子ども達は、家庭や地域において、言葉による指示的指導を受けることが多く、保護的存在になっていきます。つまり、「守ってもらう」「してもらう」という受身の経験が多くなっています。このことは、「教育はすべて学校まかせ」という親の考え方にも根づいていると思われま

学校で対応をこのように

学校週五日制が、具体的に実施されるにあたり、学校では、授業時数の減少、行事の精選・ゆとりの時間の活用など教育課程の再編成をすることで対応していきます。さらに、一層の授業の充実、指導の工夫を図り、

にあり、学校は、一時的、部分的に親の責任を肩代わりしているにすぎないということに肝に命じて、親は子どもの教育に対する責任の重大さを認識しなければなりません。

そして、家庭生活や地域社会の活動を通して、社会体験・自然体験などの心を豊かにしていく機会を多くもち、物ごとを考え、判断して行動できるように、自主性のある子どもの育成をはかることが、必要なのではないでしょうか。



◎ 学校週五日制がスタートした九月より、毎月第二土曜日に、中河公民館では、子どもお茶会を、豊公民館では、かるた会を開いています。皆さんの参加をおすすめします。

◎ この「はぐみ」も、第三号を発刊することができました。これからもみなさんの御希望に添えるよう、内容を検討していきたいと思えます。みなさんの御意見・御感想をお待ちしております。

鯖江市教育委員会
鯖江市社会教育委員会
丹南愛護センター鯖丹支所
発行

はぐみ

家庭教育を考えるシリーズ



考えてみましょう、学校週五日制の意義

(東陽中学校 バスケットボール部員)

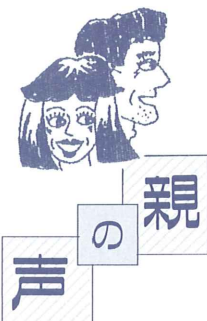
3号

見たまま 聞いたまま

学校週5日制

どう「あるべきか」

グラフからもわかるように、約六割の子ども達が、休日や週末を「友達と過ごした」と答えています。このことは、「友達と思いい遊びたい」という子ども達の思いの強さを表しているのだと思います。さて、その子ども達の思いを大切にしながら、自らが、休日の計画を自主的に立て、有意義に



親の声

- 休日の過ごし方の下手な親子には、市の企画は大変ありがたかった。(親子歌舞伎をみて)
- 親子のふれ合いを保ちながら、親の気持ちや、古きよいものを子供に伝えたい。

● 普段忙しくしているので、とてもいい一日になった。

● 我が家では、第二土曜を子どもの日と決め、子どもとの和に努めたい。

● あまり騒ぎすぎず、もう少し、さりげなく休ませたい。

● 子どもの本当の意味での休息になるような日に来たかと思えます。

● 仕事が休みにならない親にとって、この休みは

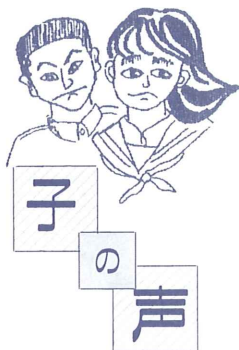
土曜休日を体験して

親の声

- 家族みんなで出かけ、バーベキューをしたり、サイクリングをしたりして過ごし、大変楽しい一日を送った。
- 友達と市体育館でバドミントンをした。この次の休みも体育館があいているといいなあ。
- おとうさんが家の模様替えをしていたのを手伝って、おもしろかった。
- お母さんが休みでなく遊ばなくて残念だった。

子の声

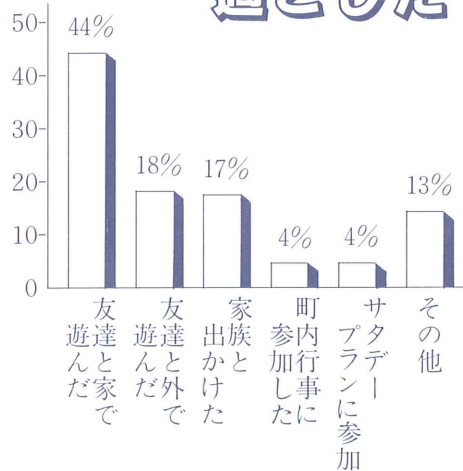
- 家の人みんな仕事なので寂しかった。
- 宿題がなかったので、思い切りファミコンができてよかった。
- 家の人と買い物に行ったり、話ができてよかった。



子の声

- 休みでも塾があるので休みでないほうがよかった。
- おばあちゃんから昔の話を聞いたり、編み物を教えてもらった。これからも続けたい。
- 公民館へお茶をしに行きました。初めてで緊張したけど楽しかったので次も行きたい。
- 朝ゆっくりと寝られてとてもよかった。僕は朝寝坊だから。

私はこのように過ごした



涓滴

「保健室登校」という言葉を時々耳にします。養護の先生の話では、保健室に来た子どもは、みな一様に「ほっとする」と言うそうです。

学力優先の社会的風潮・子育ては能力主義。学校も親も、子どもばかりを見ようとして、こうした中学生は、精神的に疲れる。そこで、保健室に来て話を聞いて、心が安らぐという。

さて、土曜日を「子どもを解放する」の一つのチャンスですが、今は子どもの負担を減らすこと、精神的に疲れるのを減らすこと、心が安らぐという。

家庭を省みるチャンス

「子どもを解放する」ことを一つのチャンスと捉え、今は子どもの負担を減らすこと、精神的に疲れるのを減らすこと、心が安らぐという。

「つつましくても家族が揃って楽しく居られる。幸せだ」という家庭を創ること、これを本気で考えねばならないと思います。

このような意味からも五日制は、家庭を省みるいいチャンスなのです。

五日制の問題は、すでに十九年程前から検討されてきました。その間種々議論を重ね、昨年九月よりまず月一回実施ということになったのです。

ところで、この五日制のねらいはどこにあるのでしょうか。

その一つは、日本の教育制度や方法を改革することにあります。教育制度・内容・受験競争・偏差値・これらが対象となるでしょう。今一つは、家庭や地域社

五日制のねらいは

うというのです。

家庭では家庭で行わなければならぬ教育があるはずで、地域社会もそうです。このことを多くの人は忘れてしまいました。

自分たちがすべきことをしないで、結果のみを見てその責任を他に転嫁する。人間の値打ちより知識の方が大切だ、と思ってしまう考え方。「子供を家庭に帰す」とは、これらのことをじっくり考え直していこうという意識があります。

以上、二つのねらいをしっかりと見据えながら、五日制を見ていかなければならないのです。



読者の声

毎号、「涓滴」をくり返し読んでおります。

わかりやすく、また、含蓄のあるご示唆に頭の下がる思いです。

○「親であることの免許状取得条件」を読ませていただき自省自戒の日々を送っています。

○「バランスのとれた雑食のススメ」参考になりました。

○ 学校五日制に対し、どう対処したらよいかご教示を期待しております。